



Contents

- 特集1 第55回相生祭 … 2～5
- 特集2 産官学連携による応援弁当の開発と販売、
食育イベントを実施 … 6
- 特集3 第13回さがみ発想コンテスト グランプリ
作品紹介 … 7
- 特集4 海外研修報告 … 8
- 学園各部報告 … 9～10
- コラム 三代目校長 田中義能 … 11
- 同窓会だより／ご寄付のお願い… 12



見つめる人になる。見つける人になる。



相模女子大学

特集1

第55回相生祭



第55回相生祭が11月3日(日・祝)、4日(月・振替休日)に開催され、2日間で延べ20,330名の方々にご来場いただきました。相生祭当日は前日までの大雨が嘘のように晴天に恵まれました。

1964(昭和39)年の相生祭以来、開会を彩ってきた市中パレードは、今年からキャンパスに舞台を移し「学内パレード」となりました。

広いキャンパス内で一生懸命に演技・演奏をする児童・生徒・学生の姿に来場者からは、大きな拍手や声援が送られていました。



大学祭実行委員長として相生祭を成功させる為に精一杯活動してきました。しかし、初めての経験ということもあります。はじめは思ったように上手くいきませんでした。一番困難だったのは、他の委員との向き合い方です。委員が活動しやすい環境を作り、頼れる委員長でいようと思っていたのですが、日々増える仕事を委員に上手く振り分けることができず、一人で抱え込んでしまいました。忙しさから目の前の仕事を必死で、他の委員とのコミュニケーションが取れていませんでした。次第に団体説明会などで他の委員と交流することが増え、共に協力して会議を順調に進められるようになつたことで、コミュニケーションの大切さを実感できました。そこから他の委員と上手く向き合えるようになりました。そして無事に相生祭当日を迎えることができ、小さなトラブルはあつたものの、委員会全体で協力し、無事に成功させることができました。大学祭を経験し、委員長としてまとめる難しさや協力する大切さを知り、困難を乗り越えた後の達成感という貴重な経験ができ、私自身が成長することができました。

大学祭実行委員会挨拶
委員長 寺崎 夢乃



社会マネジメント学科 2年生

第55回相生祭へお越しください誠にありがとうございました。先生・職員・協賛企業・地域・保護者の皆様、加えて通学する皆さんのご協力のもと、無事に相生祭を迎えることができました。突然ですが、皆さんは「相生祭」という名前の起源がなにかご存知でしょうか?「大学から幼稚園まで、学園に集つすべての人々が協力しあい、共に育つていこう」という趣旨の下、相模女子大学の「相」の文字も含まれている「相生」という言葉にちなんで、1969年に学園祭の名称を「相生祭」に改めたとされています。相生祭は今年で55回目。長い歴史のあるこの学園ですが、昭和から令和に至るまでその根底は変わらず、また今年の統一テーマである「One heart!!みんなの思いよ花ひらけ!!」にも、相生に込められた思いが継承されていると私は思います。

相生祭にご支援くださいった皆様のおかげで、無事に2日間を終えることができました。

改めて、ご来場いただきました皆様、本当にありがとうございました。

相生祭実行委員長挨拶
委員長 佐藤 茉莉愛



第55回相生祭へお越しください誠にありがとうございました。先生・職員・協賛企業・地域・保護者の皆様、加えて通学する皆さんのご協力のもと、無事に相生祭を迎えることができました。突然ですが、皆さんは「相生祭」という名前の起源がなにかご存知でしょうか?「大学から幼稚園まで、学園に集つすべての人々が協力しあい、共に育つていこう」という趣旨の下、相模女子大学の「相」の文字も含まれている「相生」という言葉にちなんで、1969年に学園祭の名称を「相生祭」に改めたとされています。相生祭は今年で55回目。長い歴史のあるこの学園ですが、昭和から令和に至るまでその根底は変わらず、また今年の統一テーマである「One heart!!みんなの思いよ花ひらけ!!」にも、相生に込められた思いが継承されていると私は思います。

相生祭にご支援くださいった皆様のおかげで、無事に2日間を終えることができました。

改めて、ご来場いただきました皆様、本当にありがとうございました。

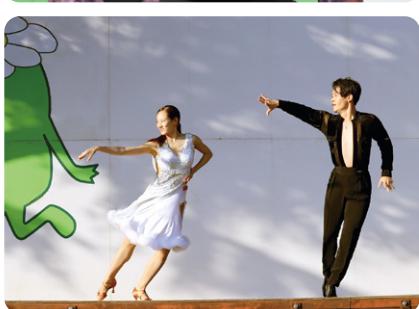
〈大学・短期大学部〉

大学・短期大学部では、各クラブやゼミナーリー、学科などの団体が模擬店・展示・ステージでの発表を行い、たくさんの方に日頃の活動を見ていただきました。大学グラウンドのメインステージでは、吹奏楽部や舞踏研究部、ライトミュージッククラブ、アイドルダンスクラブ、インクラブ、

ダンスクラブ、「A ;. s」、「E A S T E R」が練習の成果を披露しました。

また、6年ぶりに「ミスマーガレットコンテスト」が開催され、表では盛り上がりを見せ、グラントプリ発表では盛り上がりを見せ、相生祭のステージを締めくくりました。





地域物産展 地域から日本の「食」を拡げよう

地域との交流事業や体験学習、地元の農産物を使つた商品開発などを通して、本学の地域連携の輪が日本各地へと拡がっています。相生祭で開催される「地域物産展」は、食を通して地域の活性化をめざすイベントとして16回目にして開催を迎えることができました。今年は沖縄県の開催をうるま市より「勝連漁業協同組合」が初出展し、北は北海道から南は沖縄まで、文字通り全国各地より17の地域や企業にご参加いただき、農産物や海産物、スイーツなど、各地域の魅力ある特産品を来場された皆様へお届けすることができました。また、地域との交流事業についてより広く知つていただくために、新潟県佐渡市の郷土芸能「鬼太鼓」を披露したほか、岩手県大船渡市のマスコットキャラクター「おおふなトン」が登場し、会場を盛り上げました。



〔中学部〕 思いが届いた相生祭

私は当日に向けての準備の中で、去年の反省を活かして意見を述べたり、普段は関わりのない人とも意見を交わしながら、作業を進めていくことにやりがいを感じました。そして、来場者の方が自分たちが準備したものに喜んでくださったことを、色々なところで耳にしてとても嬉しかったです。

中学最後の相生祭は雨予報だったので、初日を無事に迎えることができるか心配でしたが、当日は天気が回復し、相生祭2日間とも良い天候の中で迎えることができて本当に良かったです。天候にも恵まれ、より今年の相生祭は活気に溢れていたと思います。そして、今年の相生祭の統一テーマである「One heart!!」みんなの思いよ花ひらけ！」にぴったりな2日間だったのではないでしょか。みんなで心を一つにして相生祭を盛り上げようという思いがあつたからこそ天気も私達に味方してくれたと私は思います。来年の相生祭も今年以上に盛り上げましょう。

（中学部相生祭実行委員 佐藤紬）



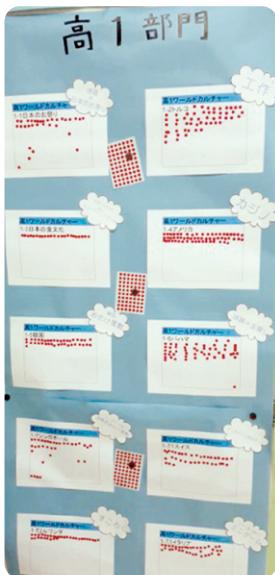
ワークショップ



学習展示



中3ワークショップ



（高等部相生祭実行委員長 小西紗矢）



私にとって今年の相生祭は、とても成長するきっかけとなり、思い出となりました。

協力してくださった皆さん、来場者の方々、ありがとうございました。

（高等部相生祭実行委員長 小西紗矢）

〔高等部〕 相生祭を終えて

私は、昨年度の相生祭で運営委員になり、やりがいや達成感を感じ、とてもいい思い出ができました。そして今年も、昨年度運営委員だったことを生かして、みんなの思い出になるような相生祭を作る手助けをしたく、今年も運営委員になることを決めました。そして、運営委員の誰よりも相生祭のために行動したいという気持ちから、委員長になることを決めました。

当日前まで、うまくいかないことや不安なことも多くありました。しかし、他の運営委員や実行委員、先生方の協力のもと、無事2日間を終えることができました。短い準備時間の中、遅くまで残り、準備をしていた方々を見て、私は今年のテーマ「One heart!!」を感じました。そんな皆さんのおかげで相生祭を盛り上げることができたのだと思います。来年の相生祭に向けて、今回うまくいかなかつたことをしっかりとまとめ、次に活かせるよう引き継ぎます。

私にとって今年の相生祭は、とても成長するきっかけとなり、思い出となりました。

小学部 新たな伝統をつくる学内パレードと 劇・合唱発表

お天気が危ぶまれた相生祭1日目。前日までの大雨が嘘のように、朝から見事な晴天に恵まれました。相生祭1日目、小学部は4・5・6年生鼓笛隊による学内パレードと、全校児童によるグランドドリルを披露します。今年度より、相模女子大学の広いキャンパスを小学部・中高等部・大学の鼓笛隊がパレードするようになりました。4・5・6年の子どもたちが堂々と、そして誇らしげに演奏しながら学内パレードを行うことができました。

グランドドリルでは、1・2年生が鍵盤ハーモニカ、3・4年生はソプラノリコーダー、5年生はアルトリコーダーを担当します。6年生は、金管楽器や打楽器・バトンなど、約1年かけて練習してきたそれぞれの楽器を担当します。特に6年生は、相生祭の2ヶ月前から毎朝大グランドにて、グランドドリルの隊形移動の練習や、移動しながらの演奏の練習に繰り返し励んできました。当日は練習の成果が發揮され、今年度のグランドドリルは、隊形の入れ替わりが多く取り入れられ、とても見応えのある発表となりました。発表後の子どもたちの顔はとても晴れ晴れとしており、新たな伝統としての学内パレード、グランドドリルの完成を見たような気がしました。

相生祭の2日目は、1・3・5年生の奇数学年がクラスごとに劇を発表し、2・4・6年生が学年での合唱の発表をしました。今年度より、偶数学年の合唱発表は、より広く発表の場にふさわしい、学内の翠葉会館講堂で行いました。新しい会場で、子どもたちは大舞台に緊張しな



学内パレード



グランドドリル



1年生の劇



4年生の合唱発表

がらも、一人ひとりが音を聴き合い、美しいハーモニーを響かせることができました。これまでの練習での努力や、みんなと一緒にひとつものを作り上げようという子どもたちの思いがよく伝わってくる合唱の発表となりました。例年通り、小学部の視聴覚ホールで行われた劇も、たくさん保護者の方に来ていただき、子どもたちは夏休み明けから取り組んできた成果を十分に披露することができました。

小学部の劇は、子どもも教員、保護者の方が協力して作り上げる手作りの劇です。例えば大道具は教員が段ボールにデザインしたものを作り、効果音は担任の先生が選定した音を担当者が編集して劇で流します。照明も劇の雰囲気についたものを担当が調整して劇を盛り上げます。また、衣装は保護者の方々にお願いして、その役にあつたものを選定していただいている。こうして、みんなで作り上げる劇は、昔からの小学部の教育を体現した一つの場面でもあります。

小学部の相生祭として、形が変わっていくものもありますが、そこには変わらず受け継がれる願いや思いがあります。今後とも、新たな伝統として相生祭に向けての教育の活動を大切にしていきたいと考えています。最後に、相生祭の運営に協力していただいた皆さま、特に、保護者会、おやじの会、小学部同窓会の皆さんに、この場で御礼申し上げます。

(荒井)



開会式に参加した年長さくら組の子どもたち

認定こども園 幼稚部の代表として

爽やかな秋空の下、相生祭開会式に年長さくら組の子どもたちが参加しました。入場前の待機時間中は、テントから漂ってくる美味しい食べ物の香りや

イチヨウ並木に落ち始めた銀杏の何とも言えない香りを楽しみながら、いつもとは違う学園内の雰囲気に胸を彈ませワクワクしている様子が窺えました。しかし、入場行進が始まり鼓笛隊の演奏が聞こえてくると、ピシッと背筋を伸ばして気持ちを切り替える子どもたちの姿がありました。広い大学グラウンドを一步一歩前へ進む子どもたちの表情からは、緊張している様子や嬉しさ、楽しさ、恥ずかしさ等、様々な感情が見て取れましたが、暖かいお日様の光にも後押しされ、幼稚部の代表として見事に大役を果たすことができました。

開会式を終えた子どもたちには満足そうな笑顔が溢れ、「かっこよかった?」「すごかったでしょ」と確認する声も飛び交っていました。この素敵な経験がまた一つ子どもたちの自信に繋がっていくことと思いま

特集2

管理栄養学科の学生が、地域の食環境整備事業の企画、実施、評価のメンバーとして活躍しました！

産官学連携による応援弁当の開発と販売、食育イベントを実施



「頑張るあなたを！応援弁当」のメニュー
この告知用ポスターも学生が作成しました。



当日の食育イベント会場に特設された
販売ブースと学生の様子



当日限定で食育イベントのため
特別ブースも設置されました



協定締結式の様子
左から本学学長 区長 イトーヨーカドー

〈特集2〉産官学連携による応援弁当の開発と販売、食育イベントを実施

8月10日(土)・11日(日)、イトーヨーカドーアリオ葛西店にて、本学栄養科学部管理栄養学科・江戸川区・株式会社イトーヨーカ堂との産学官連携による食育イベントを特設会場で開催しました。

この取り組みは、「江戸川区食育推進計画(第2次)」における食環境整備事業の施策の1つに位置づくもので、江戸川区の食や健康の課題を解決するための施策である「Edogaawaまいにちごはん」をより効果的に、そして魅力的に推進するため、2023年9月に本学、江戸川区並びにイトーヨーカ堂の3者で食環境整備事業「EIS(イース)健康弁当プロジェクト」を立ち上げました。本プロジェクトの構築と実施及び評価、健康弁当の開発を、これまで20年近く「江戸川区食育推進連絡会」のアドバイザーとしてかかわっている本学栄養科学部管理栄養学科の吉岡有紀子教授を中心となつて行いました。そして、本プロジェクトの企画・運営と普及啓発を江戸川区が、開発された健康弁当の商品化と販売をイトーヨーカ堂が行い、栄養科学部管理栄養学科の学生がレシピを考案、イトーヨーカ堂も交えた複数回にわたる試食・評価会を経て、2024年5月に健康弁当の開発を完了しました。

今回開発された「頑張るあなたを！応援弁当」は、本プロジェクトの重要な食育教材という役割がありま

す。主食には、江戸川区の特産品であり、江戸川区内で収穫された小松菜を加えた「小松菜たっぷりご飯」、主菜は、江戸川区と姉妹都市であるハイハイホノルル発祥の料理「ロコモコ」を「江戸川ロコモコ」とし、その上には緑鮮やか「小松菜ソース」をかけました。副菜は3品揃え、味のバラエティーにも富み、さらには旬の夏野菜を取り揃えました。メニューには、どれも未来の管理栄養士である学生達の工夫が光りました。

この「頑張るあなたを！応援弁当」の販売にあたり、直接お客様と接するイトーヨーカドーの従業員の方へのスタッフ研修も行うなどチーム一丸となり、総力を上げ、8月7日(水)～13日(火)の期間で、イトーヨーカドーアリオ葛西店及びイトーヨーカドー小岩店で限定販売しました。販売目標の500食をみごと達成し、各店舗から驚きの声をいただきました。

販売期間中には、「お弁当の秘密を解き明かそう！」と題して、本学管理栄養学科の学生が中心となり、このお弁当に込められた想いやバランスのよい1食であることなどについて参加者が一緒に楽しめる食育イベントを、イトーヨーカドーアリオ葛西店で開催しました。

各日3回実施された食育イベントでは、小さいお子様からご年配の方々まで幅広い世代のたくさんの方々が参加され、小松菜に関することや、今回開発された「頑張

るあなたを！応援弁当」で使われている「3・1・2弁当箱組」(©NPO法人食生態学実践フォーラム)についてなど、○×クイズ形式で楽しく学んでいただきました。

今回の「頑張るあなたを！応援弁当」の販売に先駆け7月31日に、本学は、江戸川区並びに株式会社イトーヨーカ堂との産学官連携により、江戸川区食育推進計画に基づく食環境整備事業「EIS(イース)健康弁当プロジェクト」の連携協定を締結しました。

江戸川区役所で行われた協定締結式では、田畠雅英学長から、「区民の皆様が食を楽しんでいただけるよ

うに、相模女子大学の学生たちがそれぞれの発想力を生かして商品化が実現しました。告知用ポスターやチラシも学生が作成したものになりますので、ぜひご覧ください」と、本プロジェクトへ携わった学生たちの思いを述べられました。

協定締結式の後は試食会が行われ、吉岡教授から、「お弁当の基本コンセプトは「おいしさ！」と手に取つたお弁当を食べたら、食事の量も質も味もなんとベストバランス!!」ということが体感できる」としています。あえて「健康」や「ヘルシー」を前面には出さず、メイクアップアーティストである30代前後の女性が気軽に手に取り、選びやすいお弁当であると感じながらも、1食分のエネルギーや野菜の量、食塩相当量や栄養素の目標量が適切なお弁当になっています。このお弁当になつてほしいと考えています。」とのコメントがありました。

このお弁当を召し上がる方々や食育イベントに参加くださった方々には、アンケートにご協力をいたしました。本事業の効果について検証しております。本事業のさらなる発展に向け、学生とともに今後もこの取り組みを継続して参ります。

第13回さがみ発想コンテストグランプリ作品紹介

「さがみ発想コンテスト」は発想する力を高めるとともに地域と社会に貢献する女性を育むことを目的として、2011年から開催されています。現在では本学の在学生・卒業生、高等部生および学園の教職員を対象としています。

2023年度に開催された、第13回さがみ発想コンテストのテーマは「ワタシタチの相模女子大学イメージビデオ制作」。

2025年に本学は創立125周年を迎えます。『女性の活躍を支援し、地域とともに発展する「開かれた学園』の実現に向けて、相模女子大学をより多くの方々に知つていただけるよう、125周年を記念し、大学のイメージビデオを制作するにあたつて、発想力豊かなアイデアを募集しました。

2024年2月21日の最終審査会では、審査員に田畠学長、北谷名譽教授および英語文化コミュニケーション学科堤教授を迎え、一次審査を通過した4組のプレゼンテーションが行われました。

『学園のバトン』は125年にわたる学園の歴史と、そこで過ごした児童・生徒・学生たちや卒業生とのつながりをバトンで伝えたいというアイデアです。

北谷名譽教授からは「今回の125周年へ向けてのテーマにはびたりで審査員の満場一致で決まりました」とのお話がありました。

5月よりイメージビデオ制作がはじまり、完成した動

画は、8月24日の大学のオープningキャンパスにて初公開されました。12月20日から1月21日には、15秒に編集した動画を相模大野ステーションスクエアの大型サイネージで放映します。正門から長く続く銀杏並木を舞台に、園児から児童、生徒、学生、教職員、同窓生へと順番にバトン役を担うのは、学園で親しまれているキャラクター「さがみ・ジョー」です。

過去・現在・未来の「相模女子大学」をさまざまな視点から切り取った125周年に向けてのすばらしい映像になりました。



「さがみ発想コンテスト」最終審査会での発表の様子



◆「学園のバトン」イメージビデオの完成版はこちら



イメージビデオの前半「相模女子大学 History」



イメージビデオの最後「幼稚部から同窓生までの集合カット」

三代目校長 田中義能 よしとう (1872年～1946年)



帝国女子専門学校三代目校長の田中義能(1903年東京帝国大学を卒業後、東洋大学・第五高等学校・國學院大學教授を歴任。1933年、東京帝国大学文学部助教授を定年退官)は、1940(昭和15)年校長に就任しました。田中義能は日本神道の研究に力を注ぎ、一方で学生の教育に情熱を傾けるほど熱意にあふれた授業で、当時の学生から「熱烈居士」と呼ばれていました。

戦時下においても自ら校長として女子学生の体育訓練や学校防空の先頭に立ち、学生たちを元気づけました。1945(昭和20)年4月、戦争で大塚校舎が焼けた時、「校舎は焼けても学校は焼けない。学校には永遠の生命がある。学校は間もなく再建されるから、皆さんは決して落胆してはならない」と学生や教職員を激励しました。

田中義能は学校再建に向けて、候補地として旧日本軍施設の払い下げ地である世田谷、国立、駒場、千葉の国府台、松戸、前橋、横須賀そして相模原を見て回りました。相模原は町田に隣接しているとはいえ、都心より離れているし、東京ではないから有利な条件ではないという意見が出されました。

「だが、東京から少し遠いが、これから女子教育が必ず盛んになるから大きい方がいい。机、椅子、黒板などがありすぐに授業を行える環境である」との理由から相模原の地に移転することを決定。軍用地の払い下げは希望者も多く困難な状況でしたが、田中義能の熱心な働きかけの結果、何とか払い下げを受けることができました。

しかし、相模原への移転を控えた1946(昭和21)年3月、田中義能は心労と無理が重なり、急逝しました。

田中義能の言葉「校舎は焼けても学校は焼けない」は、相模女子大学110年史の書名にもなっており、創立者西澤之助、二代目校長平山成信から引き継いだ女子教育への情熱と理念は今も生き続けられています。

(アーカイブ室設置準備室)

参考：『相模女子大学六十年史』『相模女子大学八十年史』
『校舎は焼けても学校は焼けない－相模女子大学の110年－』『相模女子大学翠葉会のあゆみ』



好きを仕事に。 自身の商品企画について

大久保しぇり

(令和5年 学芸学部 英語文化コミュニケーション学科 卒業)



現在、私は「お菓子の開発会社」に勤務しています。具体的な仕事内容は、開発から企画、管理まで多岐にわたります。大学では「英語文化コミュニケーション学科」を卒業しましたが、なぜこの職業を選んだかといえば、「お菓子が好き」というシンプルな理由からです。入社試験で「お菓子が好きな方」という応募要項を見た瞬間、強く心が引かれ、面接ではお菓子への情熱と開発したいアイデアを熱心に伝えました。その結果、内定をいただくことができました。

私の会社は風通しの良い職場で、上司と新人との距離も近いです。入社して間もなく、進行中だったお菓子のデザインの一部を任せられました。初めて自分がデザインした商品が店頭に並んだ時は感動しました。しかし、お菓子の開発には半年以上かかることが、数々の困難を乗り越えてようやく商品化にたどり着くことを知り、仕事の奥深さを実感しました。

そんな中、入社3か月後に、初めて菓子メーカーの展示会に参加しました。何もわからない私が勇気を出して声をかけたメーカーの方々、コラボ商品を手掛けてくださることになりました。そこで

誕生したのが「スクAirパイナッぼ」です。商品名は「四角い(スクエア)」「パイナップルっぽい(パイナッぼ)」を掛け合わせたもので、当初は理解を得るのが難しかったものの、社長が「若者の発想を信じよう」と後押ししてくれたおかげで開発を進めることができました。寒天とメレンゲを合わせた新食感のマシュマロのようなお菓子で、斬新なパッケージも取り入れました。

開発後は、メーカーとの在庫管理、店舗導入の提案、お客様対応なども任されています。他では味わえないやりがいを感じながら、日々さまざまな問題に向き合っています。

学生時代、コロナ禍で就職の不安を感じることもありましたが、「好き」を仕事にできている今、まるで奇跡のように感じます。仕事は単にお金を稼ぐためのものと思っていたが、就職活動を通じて、自分の好きなことを仕事にすることが大切だと気づきました。

今後も斬新な発想力を活かして、より多くの経験を積み、ヒット商品を生み出していきたいです。

ご寄付のお願いとお申込方法について

「マーガレット募金」及び「創立125周年記念事業募金」を以下のとおり実施させていただいております。ご支援いただきました皆様に対し、心より御礼申し上げます。今後ともご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

125周年募金委員会委員長 速水 俊裕 マーガレット募金委員会委員長 竹下 昌之

創立125周年記念事業募金

本学園は、2025年に創立125周年を迎えます。相模女子大学創立125周年記念事業は、「女性の活躍を支援し、地域とともに発展する『開かれた学園』へ」というコンセプトを掲げ、「学園キャンパス整備事業」「周年誌編纂・学園アーカイブ室設置事業」「式典・広報事業」の三事業を実施する計画を進めております。皆様からいただきましたご支援は、この三事業による地域の活性化と本学園の更なる発展に有効に活用させていただきます。

募金内容

マーガレット募金

本学園の継続的な発展を目的とし、平成20年度に開設いたしました。用途について、「学習活動支援」「キャンパス整備」「教育・研究活動支援」よりご支援先を指定いただくことができ、また、「目的を指定しないご寄付」もお受けしております。

この中でも「学習活動支援」については、「大学・短期大学部」「中学部・高等部」「小学部」「幼稚部」と支援対象をより細かく指定することができます。

皆様からいただきましたご支援は、ご指定の使い道に従って有効に活用させていただいております。

① お振込（郵便局または銀行窓口） ② 郵送（現金書留）またはご持参

詳細につきましては、大学ホームページ (<https://www.sagami-wu.ac.jp/>) をご覧いただか、下記事務局までお問い合わせください。

③ インターネットから申込の場合

クレジットカード決済となります。ホームページ上の入力フォームに必要事項を入力の上、ご送信ください。

お申込方法 (個人の場合)



マーガレット募金
インターネット
申込入力フォーム



創立125周年記念事業募金
インターネット
申込入力フォーム

●お問合せ先 学校法人相模女子大学 学園事務部 経理課

〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 TEL:042-747-9558 FAX:042-749-6500 E-mail:bokin@mail2.sagami-wu.ac.jp

●その他奨学寄付金等のご寄付に関するお問合せ先

相模女子大学・相模女子大学短期大学部 大学事務部 学術研究支援課 TEL:042-747-9570 FAX:042-743-4916

125th Anniversary
since 1900

2025年、相模女子大学は創立125周年を迎えます。

学校法人 相模女子大学